

実践⑤ 鹿屋市立鹿屋小学校読み聞かせグループ『すてっぷ』

1 はじめに

本校は、平成 30 年度に創立 150 周年を迎えた児童数約 500 人の歴史と伝統のある学校である。読み聞かせグループ すてっぷは、平成 15 年に当時の校長先生の声掛けに応じた数人の保護者が立ち上げたボランティアグループである。平成 25 年には鹿児島県優良読書グループとして表彰され、現在も有志の保護者、OGによって、絵本のよりよい楽しませ方を追求しながら活動を続けている。

この度、読書推進運動協議会から「第 51 回 全国優良読書グループ」として表彰を受けることができた。これに至った取組とこれからも活動を維持していくために必要な改善策についてまとめることとする。

2 本グループの特徴的な活動

(1) 校内での読み聞かせやおはなし会

校内での活動は、毎週朝活動の時間を利用して行う朝読みと、毎月昼休みを利用して行う昼読みを日常的な活動として進めている。これらは他の学校でも盛んに行われている活動だと思う。これらのほかに本グループでは、授業時間を利用して行う「すてっぷさんのおはなし会」という活動がある。

これは、毎年 11 月の「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」に合わせて、2 日間にわたり行っているおはなし会である。詳細を下の表 1 にまとめる。

この活動は P T A を含む学校全体の協力に支えられ成り立っている。P T A 会計から支給される活動費をはじめ、作業教室の提供、おはなし会の後に届く全児童からの感想文から、毎年子どもたちがとても楽しみにしてくれているのを感じる。準備

や練習は容易な作業ではないが、これらを励みに、メンバーで一致団結し、活動に取り組んでいる。また、私たちの活動はあくまでも絵本と子どもたちをつなぐための活動である。おはなし会の際は作品や作者を紹介し、著作権申請を許可してくださった出版社や作者へおはなし会の様子の写真を添えたお礼状を送ることも大事な活動の一つだと考えている。



【表 1 「すてっぷさんのおはなし会」】

「すてっぷさんのおはなし会」に関する内容	
作品数	3 作品を基本に
形態	学年ごとに授業 1 時間 合計 6 回
指針	作品を忠実に再現すること 全学年が楽しめるおはなし会にすること 昔話などの内容・結末は正しく伝えること 等
表現方法	大型ペーパーサート、人形劇、表情人形劇 等 主にフェルトを材料に用い、立体的なおはなしの世界を作り上げている。
準備期間	約 5 か月 絵本の選定から著作権申請、制作、配役や練習まで。約 20 回の定例会を開く。



(2) 地域でのおはなし会

近年、校区内の育成会をはじめ、周辺の図書館、保育園・幼稚園や小学校などからのおはなし会の依頼が増え、活動の幅を広げている。対象者も乳児から大人の方まで、たくさんの方に私たちの活動を知っていただき、楽しんでいただく機会が増えた。



このように私たちの活動の幅が広がり、これらの依頼に対応し続けることができた要因を振り返ってみると、以下の点が大きく寄与していることが考えられる。

き っ か け	SNS の活用	Facebook を立ち上げ、おはなし会の様子や製作・練習の様子等を紹介
	ネットワーク	鹿屋市内の読書グループが集まる連絡会において、定期的に事例発表をし合う機会があること
	取 材	テレビや市報の取材を受ける機会をいただいた。県の優良読書グループとして表彰された点も大きい。
広 が り	対 応 範 囲	定期的な依頼から単発的な依頼まで応じた。小学生に限らない年齢層にも対応
	おはなし道具の作製	元代表がこれまでコツコツと作りためてきた多種多様なおはなし道具。いつでも対応できる素材がある。
	先輩方の経験	経験豊富な先輩方が中心となって、先方とのやり取りやおはなし会の構成や準備を進めた。

※ おはなし会の依頼は、多い時で年間約 20 回。時間帯は平日昼間から休日まで多様。

3 おわりに

今後も活動を維持し、発展していくために、課題と考えられる対応策を以下に示す。

(1) 学び合いの機会

まずは、これまで活動を大きくけん引してきた先輩方の心と技術をこれからのメンバーが引き継いでいく必要がある。そして、他の読み聞かせグループともさらに交流を図り、情報交換や技術の共有を広げていきたい。これまで私たちが受けてきたたくさんの依頼を、私たちだけが今後も応じるのではなく、その依頼を多くのグループで共有し、鹿屋市全体でさまざまなグループのおはなし会が開かれるようになることを願う。

(2) 活動のスマート化

私たち母親グループが、日々の暮らしとおはなし会活動を両立させることは容易なことではない。活動に参加するメンバーを募るも、なかなか増やせないことも課題の一つである。活動内容や時間を精選し、たくさんの母親、さらには父親にも気軽に参加できるような形を検討していく必要がある。本グループには、朝読みのみに参加しているメンバーも増えている。今後も小さなきっかけから活動の幅を広げていけるような工夫をしていきたい。

(3) 家庭での読み聞かせの充実

読み聞かせは、まずは親子で行われるのが一番だと思う。家庭での読み聞かせを広げることにも私たちの大事な役目である。PTA活動などを利用し、積極的に呼び掛けたり、絵本選びのコツなど学び合う機会を設定したりしていきたい。